

神戸いのちの電話

社会福祉法人 神戸いのちの電話



初日の出

神戸の初日の出はどこから見ても対岸の大阪山脈（私の造語かも）の山の上から昇ります。今回もちろんそうでした。海岸沿いに沢山の人がおられ、明るい日々を願っておられたのではないのでしょうか。 2024年1月1日 神戸市舞子にて（H.H）

神戸いのちの電話 相談電話 Tel 078-371-4343

フリーダイヤル自殺予防いのちの電話 Tel 0120-783-556

ホームページ <https://kobe-lifeline.org>

読者アンケートに
ご協力ください



▲
QRコードよりご覧ください

関西のある高校生が見ている世界と生きる意味

精神科医
認定 NPO 法人「地球のステージ」 代表理事

桑山 紀彦



10月2日、大阪市内にある外国語専門学校に付属する高等学校課程の高等部の生徒さん対象に『地球のステージ』公演を行いました。公演後、質問コーナーで早々に手を挙げた高校1年生がいました。

「この世に絶対的な悪って存在すると思いますか？」

中学校までを不登校で過ごし、なかなか学校になじめなかった子どもたちが集まるこの学校は、多感であるが故に苦労し、いろんな壁や障がいにつつかしてきたことが予測されます。そんな中でのその質問にびっくりすると同時に彼の質問の意図をくみ取りつつ、僕はこう答えました。

「正義の反対が悪なら、それはある意味簡単な構図であり、その悪はみんなで責められるべきでしょう。しかしほとんどの場合が正義の反対はもう一つの正義で構成されている。だから難しい。自分の正義が必ずしも正しいとは限らないし、どう考えても悪にしか見えない相手の主張だってその人にとっては正義だったりする。だから戦争が終わらないんだろうね。ところであなた自身はどう思っているの？」

すると彼は答えました。

「人間は生まれたときは素直でまっすぐで絶対に悪なんかではないと思うんです。でも生き

ていく中で、いろんな事情で「悪」と呼ばれる人になってしまうだろうと。でも僕はそれを悪と呼んではいけないと思っていたので、答えに救われました。」

このニッポンに生きる関西の高校生、よく成長していると思いました。

「こんな心のこもった質問ができる高校生のあなたに元気をもらった。ちなみにウクライナに侵攻しているプーチンだって彼なりの正義がある。それを悪だと決めつけて彼を追い込めば彼はもっと反発し、多くの人犠牲になる。難しいかもしれないけれど“なぜ彼はあんなことをしてしまうのか”という視点でウクライナ侵攻を理解していかないと戦争は終わらないと思う。」

彼はステージが終わった後まっすぐ僕のところへ来てくれて、これからのことや将来の希望を語って帰っていきました。将来が楽しいな高校生です。

また別の2年生が聞きました。

「イスラエルは逃げ惑っている難民キャンプのパレスチナ人を爆撃したりと、どうしてあんなひどいことができるのか、素朴に疑問に思いますがなぜなのでしょう。」

なかなかコアな質問です。

「まず、テレビを見てそういったことを“疑

問に思うこと”そのものが大切。だからただ“ふ～ん”で終わるのではなく、“どうしてあんななの？”という疑問が持てるあなたの心の在り方が素晴らしいと思います。」

本当にそう思いました。

「イスラエルは先の大戦の時ジェノサイトに遭い、本当に大変な思いをしました。そして自分たちは世界から嫌われており、自分たちなんてこの世界からいなくてもいい存在なのだとずっと思ってきました。それは祖父母の時代から今の孫までずっと伝えられてきたものです。だから被害者意識が強く、少しでも何かされると『100倍返しだ!』となってしまう。もちろんそれは良くないことだけれど、でもイスラエル（ユダヤ）の人々をそうやって追い込んできたのもまた人類の責任です。傷つけられ^{いじ}虐められて、落とされて長い間放っておかれたらこんなふうに攻撃的になることを、私たちは自分のこととしても理解出来るはず。

そんな視点を持てば、彼らの過激な反撃性の理由が見えてきます。それを理解した上で『どうすると良いのか』を考えるとより一層パレスチナで起きている戦争も見えてきます。」

彼はとても納得してくれていました。

くれぐれもこれはプーチンやネタニアフを肯定しているものではありません。しかし彼らの

心性を理解する姿勢がないと戦争は終わらないと思うのです。

中学校時代は部活に明け暮れて、高校時代は地元の県立に進んで仲間と楽しく体育祭や文化祭に燃えて…。という「一般的な」高校生活とは無縁の、ある意味「課題を抱えた」子どもたちなのかもしれないけれど、『地球のステージ』を聴く姿勢は素晴らしく、拍手も気持ちがいこもり、時折暗闇であっても目に涙を浮かべる子もいて、そしてこの質問の深さ…。感動しました。

こうしてみるとやはり人間は困難があるからこそ成長し、心のひだが深くなるのでしょう。決して順調ではない、言うなればいばらの道を歩んできたに違いないであろうこの子どもたちが見せてくれたその姿や言葉に、人が生き、成長する意味を教えてもらった思いでした。

最後に子どもたちに伝えました。

「生きているだけでいい、それだけであなたたちは誰かを励ましている。そこに存在するだけでいい。それだけであなたたちは誰かを支えている。」

子どもたちを見守る先生が涙を拭いながら、大きく頷いていました。日本の教育はまだ生きています。



「消えた年金」とわたし

社会福祉法人神戸いのちの電話 評議員
公益財団法人神戸学生青年センター 理事長 飛田 雄一

「消えた年金」、何年か前に問題になっていた。自分とは関係がないと思っていた。が、あった。亡くなった父の未払いの年金を今年4月、ゲットしたのだ。

私の父は戦争中飛行機会社で働いていた。空襲にあった体験を聞いていた。「めんどくさくて(?)避難しなかったが、一度だけ避難したらほんとに爆弾が落ちた。そのとき避難してなかったら君は存在しない」とも。その会社がどこだったのか、聞く前に父は亡くなった。「神戸空襲を記録する会」にもかかわりだした私は残念なことをしたと思う。確かめようはないのか。

昨年初め神戸新聞に、戦争中の徴用時期の父の年金を受けとったという記事があった。これだ。年金事務所に問い合わせれば父の会社がわかる。

私は、父の会社は川西航空機だと思っていた。年金事務所に父の名前、本籍、生年月日等を書類で出した。そして川西航空機ではないかと考えている旨も伝えた。

2～3週間して年金事務所から連絡があった。父の記録が見つかったとのこと。すぐに事務所に行った。判明したのは、父は川西航空機ではなく東京の立川飛行場で働いていたという事実だ。初めて聞いた。両親が東京で結婚したという話は聞いていたが、父は立川で働いていたのだ。

「戦争中の年金部分は支払われていませんので、請求してくださればお支払いします」とのこと。請求した。

父が死ぬまでもらっていた年金は、年130万

円。立川の部分を計算すると年額7万円分不足していたことになるらしい。父の死後、母が受け取っていた遺族年金も7万円の4分の3が未払分となる。そして私は合計170万円を得た。

父の空襲体験の場所を知りたかっただけの私は、「ごほうび」をもらった。親族で懇親会をして両親を偲んだ。知らなかった父の話もいろいろでた。

私は、戦争中徴用された朝鮮人の年金、未払い賃金問題にはかかわっていた。だがその返還、補償問題は進展がなかった。遺族が親の労働現場を知っていた場合には、厚生省や年金局に申請する場合もあった。しかし「物価スライド」はなく、未払い金100円?、年金脱退一時金200円?を受けとる場合が少しあった程度だ。しかし父の場合のように、戦後厚生年金を受けとっていた人は、「消えた年金」を物価スライドさせた7万円が支給されたのである。おそらく立川飛行場だけでも数百人、全国では数十万人の戦争中の「消えた年金」があるはずだ。

父の未払い年金による各種懇親会は続いている。ふむ、いのちの電話にもカンパしなければならぬだろうな。



「聴くこと」を巡って

社会福祉法人神戸いのちの電話 研修委員 本多 雅子

1981年に「神戸いのちの電話」が開設されてから43年が経ちました。その間、毎年十数名の相談員が養成講座を経て認定されてきました。開設以来、「神戸いのちの電話」の活動は100名を超える相談員によって支えられています。

私を含む十数名の研修委員には「いのちの電話」運営の中でいくつかの役割がありますが、2年にわたる養成講座のプログラムを分担担当し、新しい相談員の認定に関わることは大きな役割になっています。

講義、ロールプレイ、実習などを通して講座生に求められる基本は「如何に、真摯に、相手の話を聴くか」に凝縮されるといっても過言ではないでしょう。もちろん、聴くことと並行して相談者が話しやすい「相づち」や「内容の反復」をタイミングよく挟むことも必要になります。養成講座の講義の中で、私は講座生に「あなたは普段、会話の中でどんな相づちを使いますか？」と質問します。そうすると「ええ」「そう」「なるほど」「ふーん」「はいはい」と色々出てきます。時々ですが「わかる、わかる」が登場します。

数年前、朝日新聞の読者投書欄「声」に次のような投書が載りました。

前略……そういえば学生のころ、友人の話に「分かるわ」と相づちを打った時、彼は言った。

「わかるなんて言ってほしくない。簡単にわかることじゃない。知っておいてほしいから話したんだ」

…後略

同じく朝日新聞掲載の「折々の言葉」で著者の鷺田清一氏は、コミックの中から次のような主人公の言葉を取り上げて解説されていました。

「どうしても俺のことが判らないならそれでもいいんだ ただ 判らないこともあるということを知って欲しい」…人に恋愛感情や性的欲求を抱けず、異性相手でも同性相手でもいつも「いい人だ」で終わる若者。彼のそんな思いを受け入れられずにいる家族に彼はこう告げる。…中略…**「判らない」は理解の起点であって終点ではない。理解は、共鳴ではなく、理解できないものの存在を認めることから始まる。**

いのちの電話で相談員が受ける電話の中にも「理解しにくい」「わかりにくい」訴えや相談が少なからずあります。表面的に「わかりますよ」とは返さず、「まだよく理解できないけれど、あなたが今そういう思いの中で苦しんでいることは伝わりました」と返すことで、相談員側の「聴こうとする姿勢、わかろうとする努力」が相手には伝わるのでしょうか。

私が「神戸いのちの電話」の活動に関わりはじめてから18年が経ちました。

多くの相談員の人たちと「聴くこと」を中心に置いて研修を続け、多くのことを学び理解も進んだように思いますが、一旦世の中を見渡すと日々「わからないこと」は増えていくばかりです。「聴くこと」の学びにゴールはなさそうです。

『ドラマチック』かなあ？

もうはるか昔。わたしが中学生の頃、テレビCMで流行ったキャッチコピー。『ドラマチックやなあー』

どんな内容だったのかは忘れてしまいましたが、それにあやかり『ドラマチックな出来事』『ドラマチックな出会い』『ドラマチックな生き方』など、憧れを込めてそのような言葉がよく使われていました。

まだ中学生の自分には『ドラマチック』なんて、無い無い！

ある日。担任の国語の先生がわたしたちに語り掛けました。「『ドラマチック』は、自分で作るものなんだよ。何か始めようと思ったり、こうしたいなあ…って迷ったりする時、次の一步を踏み出せばそれが君たちのドラマの始まる時なんだ。気恥ずかしくったり、不安があっても、ドラマチックな生き方は自分の中の勇気が握っていると思う。」（もっと関西弁で）

私は、活動20年表彰をいただき、研修2年を加えますと、いのちの電話を知ってからもうかなりの年月になります。職場で新聞整理の為なんとなく記事に目を通していた時、養成講座の募集記事が目に入りました。色々と思ひ悩む事の多かった頃。何か知りたい、解りたい、という感情が湧き、受講に至りました。

これも私にとっては『ドラマチック』かなあ？

(A.H)

穴の中から空を見上げる

認定された時にいただいた書類の中に、『問いかけることと共感』という冊子がありました。長尾文雄先生がいくつかの広報誌に投稿された「人間関係シリーズ」から抜粋されたものです。

手に取ってみると分かりやすい文章だったので、そんなに活字好きではない私でも読み進めることができました。各話の分量も私に合っていたのだと思います。

認定されたばかりで、「傾聴」「受容」「共感」という語の間を彷徨っていた自分にとって、方位磁針のような存在でした。

理解するのに時間がかかる私は、開くたびに冊子の中を行ったり来たり。

ある日、「穴の中から空を見上げる」の話を読み終えた時、何かが心にストンと落ちたような気がしました。これが「寄り添う」のイメージか！

それ以来「寄り添うとは」という話になると、私はいつも「穴の中から一緒に空を見上げる」自分の姿を想像するようになっています。誰かの隣で同じように膝を抱えて、何を話すでもなく一緒に空を見上げている自分。そんなイメージです。

受話器を手にすると余裕がなくなってしまうのですが、そういう姿勢でありたいと思っています。

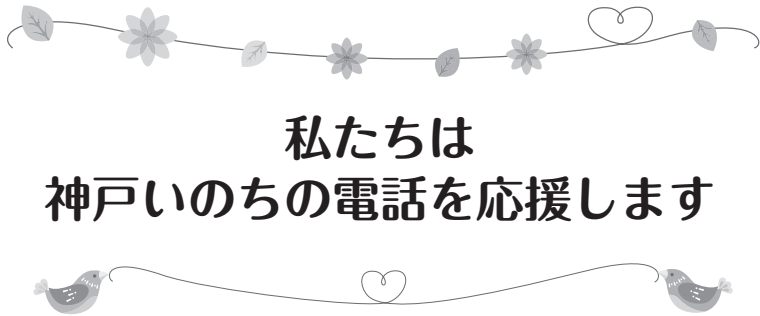
未だに行ったり来たりしているので、冊子はもうよれよれです。

(Y.S)

ご存じですか

神戸市のご協力により、三宮や大倉山などの神戸市営地下鉄駅の数カ所、「神戸いのちの電話」をご紹介します。ふとした時の視線の先、気づいてくださるといいですね。





私たちは
神戸いのちの電話を応援します

みつかる。つながる。よくなっていく。

公益財団法人
神戸YMCA

〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-11
電話 078-241-7201(代表) FAX 078-241-7479
<https://www.kobeymca.org>

海の幸

高嶋酒類食品株式会社



高級奈良漬

甲南漬

東光碍子(株)は
神戸いのちの電話を応援しています

〒658-0044
神戸市東灘区御影塚町3丁目9番18号
東光碍子株式会社
取締役社長 濱 浩一

65年の信頼と実績

大阪ガスサービスショップくらしプラス
株式会社ライフライン

台所・お風呂(水廻り)のリフォームから
手すり・バリアフリー工事等の介護リフォームまで
ライフラインにお任せ下さい!
住まいの快適を環境に適した提案で実現いたします。

神戸市東灘区住吉南町3丁目2番23号
TEL.078-845-2171



TEL:078-431-1682

世代別 はじめてのミラブル、誕生

サイエンス社正規販売店で購入ください。



特別価格にて
販売いたします。
まずは、お電話でお問合せください。
06-6584-4771
(平日9-17)上野



小倉サンダイン株式会社
サイエンス社製品正規販売店

豊色
Mirable
44,880円(税込)のところ
特別価格にて販売します。
“爽”・“潤”も同時発売

木村 歯科

〒651-0087 神戸市中央区御幸通8丁目1-6
神戸国際会館13F
☎078-251-1823

ベテルおおた社会福祉士事務所

社会福祉士・主任ケアマネージャー

大田 厚三郎

(日本基督教団神戸栄光教会会員・元西宮市役所職員)

〒654-0009 神戸市須磨区板宿町2-1-15
TEL 090-9112-6357



村田建設 株式会社

〒653-0825 神戸市長田区池田新町11-17
TEL (078)641-0231
<https://www.murata-kk.com/>

福島神経科クリニック

精神科・心療内科・精神科デイケア

〒651-0097 神戸市中央区布引町1-1-25
TEL/FAX 078-242-7226



甲南女子大学

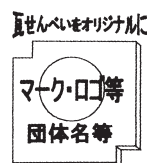
〒658-0001 神戸市東灘区森北町6-2-23
TEL 078-413-3130
<https://www.konan-wu.ac.jp>

安全運転・快適な車内空間を
ご提供いたします!
夜間・早朝も対応します(事前予約要)
介護タクシー
ますらお

丈夫かい

山本 常雄

予約電話 090-3943-0110



神戸石原 死せん道し、死せんじかしの元祖
創業明治六年
亀井堂 總本店
神戸・元町

TEL (078)351-0001
www.kameido.co.jp

1日10円で始める資金ボランティア



いのちをつなく 一本の電話

神戸いのちの電話

募 集

自殺予防いのちの電話講演会

「傾聴から学ぶ人との関わり」

日 時 2025年2月15日(土)13:30 ~ 15:30
 会 場 神戸市立総合福祉センター 4階会議室
 講 師 末松 渉
 (東京いのちの電話理事長)
 定 員 80人 参加費 無料
 申 込 QRコード、電話、メールの
 いずれかで。



2025年度連続公開講座を開催します

5月17日(土) ~ 7月5日(土)
 いずれも、10:00 ~ 12:00
 全8回の公開講座は、7月からスタートする
 養成講座受講の応募要件にもなります。
 詳細についてはHPからご覧ください。
<https://kobe-lifeline.org/>

活 動 報 告

9月23日(月・祝)には、第43回「おいでやすカーニバル」が、神戸市須磨区の神戸聖隷事業団で行われ、神戸いのちの電話もバザーで出店参加し、たくさんの方々に協力いただきました。青空の下、地元高校生によるチアリーディングなども披露されました。

9月28日(土)の午後、神戸栄光教会にて、「『花と名曲』いのち奏でるチャリティコンサート」が、京都カルテットのみなさんのご協力で開催され、参加者からのご寄付等、たくさんの方々にご支援いただきました。素敵な音色とともに池坊神戸支部のご協力による生花で、よりいっそう秋の気配のするひとときとなりました。



事務局日誌

2024	
6/1 公開講座④	8/3 養成講座(一日研修)③
6/6 事務局会議	8/8 養成講座④
6/7 全体研修②	8/22 養成講座⑤
6/8 公開講座⑤	8/24 第3回研修委員会、一日研修
6/15 公開講座⑥	8/29 養成講座⑥
6/17 第1回評議員会	9/2 事務局会議 第2回広報委員会
6/18 全体研修③	9/5 養成講座⑦
6/22 公開講座⑦	9/9 相談員委員会
6/26 第2回研修委員会	9/12 第1回財務委員会 養成講座⑧
6/29 公開講座⑧	9/17 第3回理事会
7/1 事務局会議	9/19 養成講座⑨
7/4 広報誌86号発送	9/23 「おいでやすカーニバル」出店
7/8 相談員委員会	9/24 ハンドブック改訂WT①
7/18 養成講座①	9/26 養成講座⑩
7/20 相談員オンライン交流会	9/28 「いのち奏でる チャリティコンサート」
7/25 養成講座②	10/1 事務局会議
7/26 事務局会議	10/3 養成講座⑪
7/27 桑山紀彦さん講演会	10/10 養成講座⑫
7/29 第3回運営委員会	10/11 フリーダイヤル全体研修①
8/1 神戸市指導監査	10/15 ハンドブック改訂WT②
	10/16 第3回広報委員会
	10/17 フリーダイヤル全体研修②
	養成講座⑬
	10/21 相談員委員会
	10/23 第4回研修委員会
	10/24 養成講座⑭
	10/26 フリーダイヤル全体研修③
	相談員交流会
	10/29 ハンドブック改訂WT③
	事務局会議
	養成講座⑮
	10/31 養成講座⑯
	11/7 養成講座⑰
	11/9 永遠瑠まりルイズさん講演会
	11/12 ハンドブック改訂WT④
	11/14 養成講座⑱
	11/22 第4回運営委員会
	11/23 高木慶子さん講演会
	11/26 ハンドブック改訂WT⑤
	(注) WT: ワーキングチーム

編集後記

私たちの広報活動とは何かということがよく話題になります。神戸いのちの電話の活動を知ってもらい、理解や応援、経済的な支援などを目的としており、この広報誌も手段のひとつです。また、公開講座や講演会、音楽会、バザーなどのイベントも度々開催しています。「まず活動を知っていただくところから!」。多くのご参加をお待ちしています。(A.M)

広報誌 神戸いのちの電話
 発行日 2024年12月
 発行 社会福祉法人 神戸いのちの電話
 発行人 理事長 水野 雄二
 編集 神戸いのちの電話広報委員会
 〒650-8691 神戸支店郵便私書箱1103号
 Tel 078-371-4405 Fax 078-371-4355
 E-mail kind4343@viola.ocn.ne.jp
 ホームページ <https://kobe-lifeline.org>